記者発表資料

平成２５年　７月１０日
東北地方整備局
岩手河川国道事務所

# ～復興道路・復興支援道路初の開通から半年経過～

## 東北横断自動車道釜石秋田線

## 宮守ＩＣ～江刺田瀬ＩＣ～東和ＩＣ

## 利用交通が伸び続け、医療・観光面でも効果が現れています

東日本大震災で被災した沿岸地域の一日でも早い復興を支援するとともに、沿岸と内陸の交流をより促進するものとして、復興支援道路の整備を進めています。

平成 24 年 11 月 25 日に、東北横断自動車道釜石秋田線 宮守 IC～東和 IC 間（延長約 24km）が復興道路・復興支援道路として初めて開通し、半年が経過しましたが、道路の利用状況をとりまとめたので結果をお知らせします。

### ■ 沿岸地域からの高度医療施設利用を支援（別紙）

### ■ 被災地への観光を支援（別紙）

※ 宮守 IC～江刺田瀬 IC 交通量の推移（平日）
＜開通直後　　(11/28)＞ 6,000 台/日
＜開通 1 ヶ月後 (12/25)＞ 6,470 台/日
＜開通 3 ヶ月後 ( 2/25)＞ 6,890 台/日
＜開通半年後　( 5/28)＞ 7,310 台/日

＜発表記者会：岩手県政記者クラブ＞

【問い合わせ先】
国土交通省　東北地方整備局
岩手河川国道事務所　電話019－624－3131（代表）
副所長（道路）　亀井（かめい）　督悦（まさよし）（内線205）
調査第二課長　佐々木（ささき）　耕嗣（こうじ）（内線451）

【開通6ヶ月後】東北横断自動車道釜石秋田線

# 宮守(みやもり)IC～東和(とうわ)ICが開通して

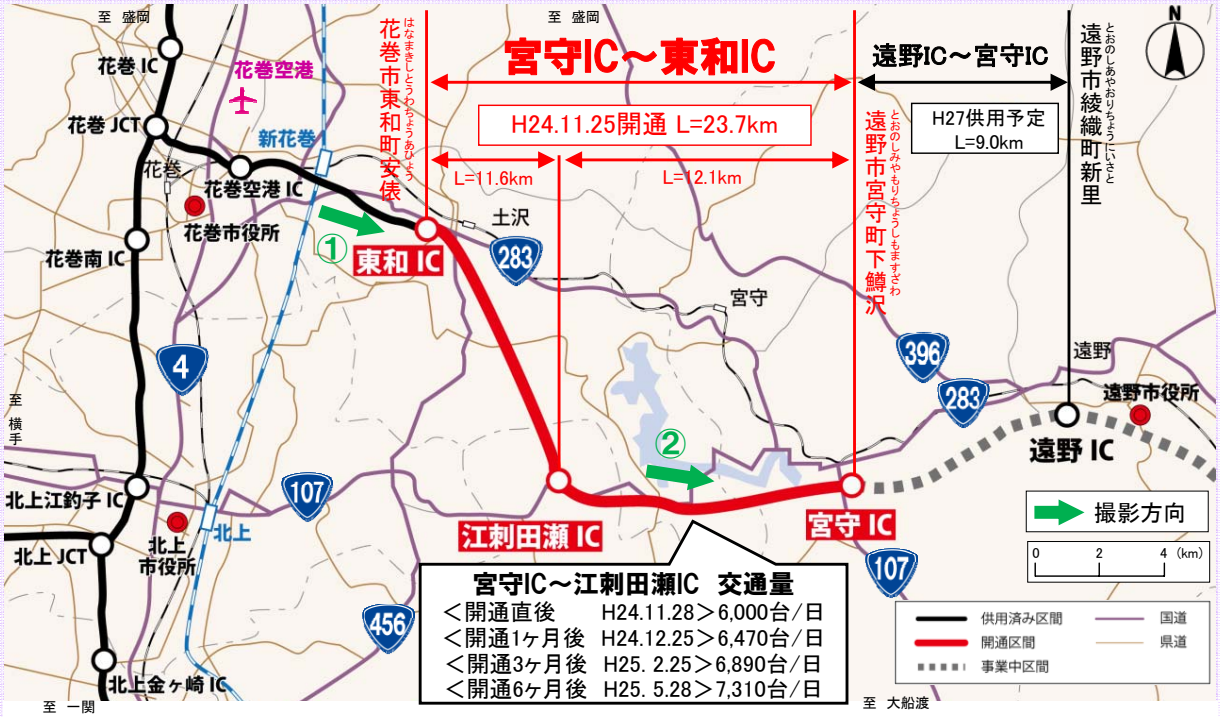
（平成24年11月25日開通）

① 開通以降利用交通量は増加を継続
② 沿岸地域からの高度医療施設利用を支援
③ 被災地への観光を支援

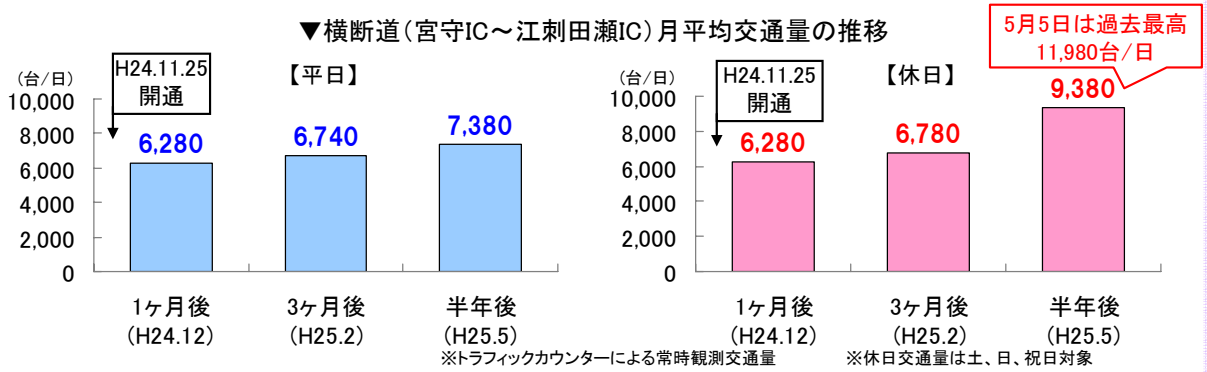









## ① 開通以降利用交通量は増加を継続

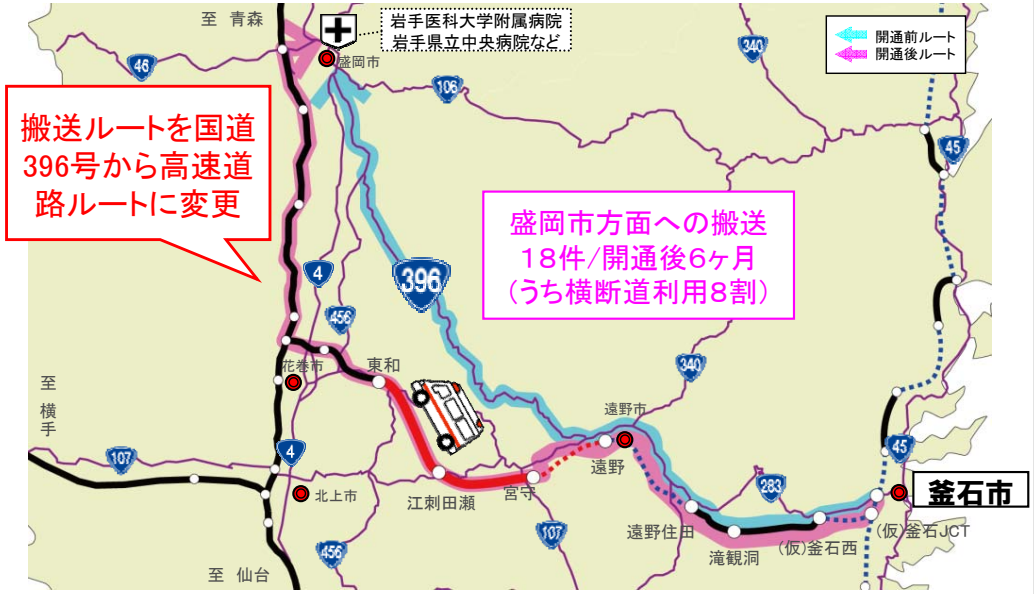


## ②沿岸地域からの高度医療施設利用を支援

・釜石地域から盛岡市の病院へ、年間で約30件救急搬送（転院搬送）をしている

・開通後は高速道路の利用により搬送時間が短縮し、患者の負担も軽減

▼釜石地区から盛岡市の病院への搬送ルート




《釜石消防署の声》

◆これまでは、盛岡市の病院への搬送はすべて国道３９６号をルートとして搬送していました。

◆宮守ＩＣ～東和ＩＣの開通後は、東北横断道・東北縦貫道を第一優先ルートとするよう変更しました。

◆ＮＩＣＵ（新生児集中治療管理室）は県内で唯一、岩手医科大学附属病院となります。新生児搬送の際は車内に保育器を置いた状態で搬送するため、カーブや路面の凹凸が容態に影響します。高速道路を利用することで保育器の動揺が少なく安定搬送ができるようになりました。

資料：釜石大槌地区行政事務組合釜石消防署ヒアリング
※釜石地区＝釜石市・大槌町

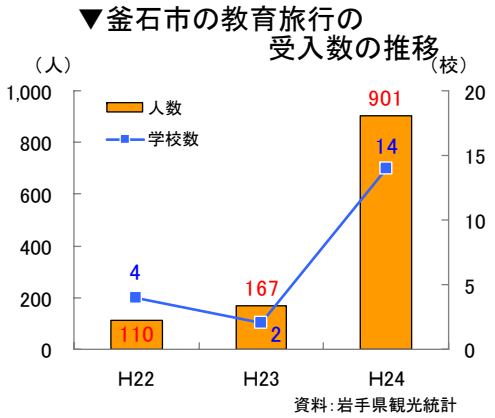
## ③ 被災地への観光を支援

・震災後に、全国各地から釜石市を訪れる観光客が急増

・これまで冬期の観光は通常期に比べると大幅に落ち込んでいたが、震災後は冬期も継続して観光客が来訪

・観光ルートの定時性向上により、被災地観光ツアーの運行しやすさが向上

▼釜石市の教育旅行の受入数の推移




資料：岩手県観光統計




出典：釜石観光ボランティアガイド ホームページ

《釜石市観光交流課の声》

◆震災後に防災教育としての教育旅行客が増えています。高速道路の開通は、釜石への教育旅行を売り込むポイントになります。

◆開通前に冬期の観光客の増加を期待していましたが、期待通り冬期も通常期に近いくらい観光客が来るようになりました。

◆宮守ＩＣ～東和ＩＣが開通した翌月以降の観光客数はすべて震災前を上回っており、開通の効果は現れていると感じています。

《被災地復興ツアー事業者の声》

◆花巻から釜石への復興ツアー参加者は、これまで1,300名を越えます。

◆宮守ＩＣ～東和ＩＣはツアーの復路に利用しています。高速道路は時間が読みやすいため、駅や空港への到着時間を的確にアナウンスできるようになり、格段に運行しやすくなりました。